

## 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔外科学講座

神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔外科学講座

教授 小林 優

### 1. 沿革

当教室は、1964年、木造3階建の旧海軍施設を改装した仮設病院の一角で産声を上げました。当初は、群馬大学医学部より招聘された布施貞夫教授と医員2名、看護師1名、衛生士1名の僅か5名で1室6床の診療科を切り盛りしていましたが、1966年に東京医科歯科大学から志村介三教授が着任され、ようやく当時の設置基準であった2教授2講座体制が整備されました。1969年10月には旧病院が竣工し、口腔外科は1室20床まで拡張され、その頃から布施教授は学部教育のみを担当し、業務の主体は志村教室が担うこととなりました。1974年、東京医科歯科大学から新藤潤一先生が助教授として着任、1982年の布施教授の退任とともに教授に就任されました。その後も志村教授を主任とする1教室2講座制が続きましたが、人員拡充とともに1991年、第一講座（新藤教授）と第二講座（志村教授）とが正式に分離独立しました。1995年、志村教授の後任として久保田英朗教授が就任し、母校出身者が初めて第二講座の運営を担うこととなりました。2003年の新藤教授の定年退職後、久保田教授の下に再び1講座に統合され、顎顔面外科学講座に改名されました。2017年、久保田教授の後任として私（小林）が主任教授を拝命するとともに、同年11月には新病院が開院、口腔外科は1室23床に拡充されました。さらに、2020年7月には東京大学から安部貴大教授、東京医科歯科大学から田中香衣講師を招聘し、今年度から口腔外科学講座と改名して、現在に至っています。

安部貴大教授の略歴は下記の通りです。

- 平成10年3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
- 平成14年1月 University of Michigan,  
Human genetics 留学
- 平成14年3月 東京大学大学院医学系研究科外  
科学専攻博士課程修了（医学）
- 平成14年7月 産業技術総合研究所年齢軸生命

工学研究センター特別研究員

- 平成16年4月 埼玉医科大学病院口腔外科助教
- 平成19年4月 埼玉医科大学国際医療センター  
頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科助教
- 平成23年1月 東京大学医学部附属病院口腔顎  
顔面外科・矯正歯科助教
- 平成30年4月 東京大学大学院医学系研究科外  
科学専攻口腔顎顔面外科学分野  
講師
- 令和2年7月 神奈川歯科大学大学院歯学研究  
科顎顔面病態診断治療学講座教  
授

### 2. 現状

#### 1) スタッフ

岩淵博史大学院准教授が、昨年度をもって本学を退職され、国際医療福祉大学口腔外科学教授に栄転されました。約7年半に渡る本学への多大な貢献にこの場を借りて深く御礼申し上げますとともに、今後益々のご活躍をご期待申し上げます。一方で、本年度から京都大学より高才東助教が加わり、2021年4月1日現在、常勤10名（小林優大学院教授、安部貴大大学院教授、鈴木健司大学院准教授、沢井奈津子歯学部准教授、小澤重幸大学院講師、田中香衣大学院講師、生駒丈晴大学院助教、金森慶亮大学院助教、高才東大学院助教、不島瞳医員）、大学院生2名（小関理恵子、原田隆史）で口腔外科の診療・教育・研究に従事しています。

#### 2) 臨床

地域包括ケアシステムの推進に伴い、市中病院あるいは医学部併設の歯科口腔外科においては、診療の主体が医科の入院患者に対する周術期歯科管理に移行し、口腔外科本来の手術件数は減少傾向にあります。その一方で、歯科大学の口腔外科では、地域の高齢化に伴い幅広い口腔疾患へのより専門的な対応が求められる状況となっており、当院口腔外科でも、昨年1年間の取り扱い症例は、外来約2,000例、入院536例に

上ります。その内、口腔外科の二大疾患とされる顎変形症と悪性腫瘍は年々増加傾向にあり、昨年は顎変形症 65 例、悪性腫瘍 38 例を扱う有数の研修施設となりました。こうした点が評価され、日本口腔外科学会が主催する次世代の口腔外科医の養成を目的としたプロモーションビデオのモデル施設として、当院口腔外科（主演：鈴木健司）が選出されました。今後は、“豊富な臨床経験に基づく充実した専門研修”を標語として、次世代を担う若手口腔外科医の育成により一層努力して参る所存です。

### 3) 研 究

当講座では、前述した口腔外科二大疾患（顎変形症、悪性腫瘍）に関する研究が2つの大きな柱となっています。顎変形症については、鈴木准教授を中心に、3次元画像診断システムの開発と臨床応用が進められており、今後益々の発展が期待されます。一方、悪性腫瘍については、これまで岩淵准教授を中心に研究が進

められてきましたが、今後は、安部教授が主体となって、発癌・転移メカニズムの解明、頭頸部癌を標的とした抗体医薬の開発、さらには、ADC や光工学を応用した新たな治療技術の開発や再生医療技術を用いた顎骨再生など、幅広い研究内容を展開して行く予定です。

### 4) 教 育

口腔外科学の教育は、関連する疾患が膨大であることから、ともすれば脈絡の無い博物学の印象を与える危険性をはらんでいます。こうした欠点を克服すべく、今年度からシラバスを一新しました。当講座の教員が一堂に会し、真剣に口腔外科学教育の在り方について検討した経験はこれまでになかったことです。シラバスの見直し作業はまだ完了した訳ではありませんが、今後も学生の視点に立ち、系統的かつ論理的で分かりやすい教育を目指して、日々の改善に努めて行く所存です。



小林 優 教授



安部貴大 教授



田中香衣 講師

### 【自己紹介】

祖父が海軍であったため、母は横須賀で育ちました。ゆかりのあるこの地で皆様と一緒に働くことが出来て、大変嬉しく思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



講座員一同